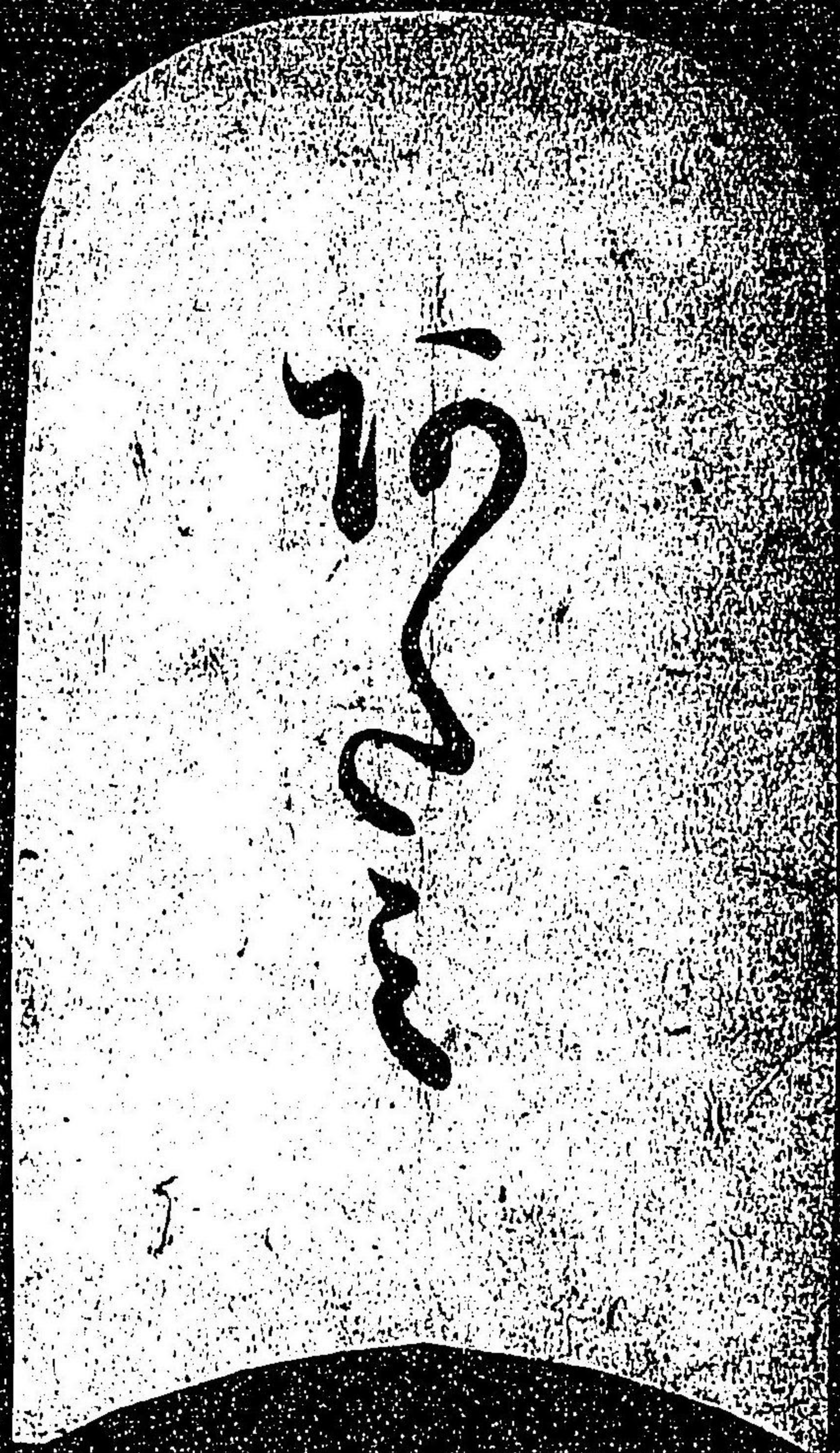


特42

466



074912-000-2

特42-466

あたま

石渡平七

M35

CEL-0001





是亭茶函新御の借りて公我け  
程と時の時種よ素籠や又是



より伊豆権現を抄とせりらんあ

其今海心とんきてはるや東を乃

か毛のりや新根とく伊豆の時

きたりくともふはくあ心唐茶海

乃鹿と一毛が尻尾して高越炭

あしはゆふ松一村よりらまゐる

後山コトノふきくコトノ詞

程よ夜中いさくさく

昼とくし雲の名もあつ森か

と柳のいミヤ雅らふ久米た

ふんくコトノのきりコトノ

年あコトノゆきくコトノ

梅のコトノあけコトノ

ふコトノまコトノ夕陽

新コトノうコトノ磯

ほコトノあコトノ

都より神よりまきて二村西のまきを  
振もきひつ終あつて美州夜露を  
書く抄きけりあつて使つあつて

書  
いふは是なるむいふあつていふは

乃いふいふの事いふいふいふ

いふいふ 是を末由行抄れ借

あつていふは位直指現一系借中いふ

あつていふはまてあつてあつて借安といふ

はくといふいふ 是を末由熱海

いふいふあつていふいふいふいふ

乃いふいふいふいふ乃名所教くたれ

いふいふいふいふ并録并録乃天地の

呼吸の急し 形骸の海に  
垣の如湯升 酒中熱鉄と  
類の書又 波濤の巻と  
湯とぬく ぬくは 期夕  
人を痛ふ 痛ふは 痛ふ  
もや 温泉の ぬくは ぬく

学術の急し 形骸の海に  
垣の如湯升 酒中熱鉄と  
類の書又 波濤の巻と  
湯とぬく ぬくは 期夕  
人を痛ふ 痛ふは 痛ふ  
もや 温泉の ぬくは ぬく

三三三三 池れき津乃湯是也又

三三三三 難岐乃糸と芦荻の湯 三三三三

三三三三 新色の乃太綱乃湯 三三三三

三三三三 一と陸奥や名取の湯 三三三三

三三三三 不波乃湯 三三三三

三三三三 和毛乃湯又乃 三三三三

三三三三 湯と 三三三三

三三三三 子 三三三三

三三三三 三三三三 所ハ仔

三三三三 夏乃 三三三三

三三三三 病 三三三三

三三三三 湯 三三三三

乃世界も一統なるは天も陰陽  
ちりひ乃海の底深きなりは  
まゝに結く月も露も水の  
まを也夕陽乃如陽の如く  
佐西白うらも南も是なるま  
海にこころあり所なるま見  
し海にこころあり海なるま  
乃西もひよれなるま  
名も新海にありは海のもの  
そふはのこころ海なるま  
乃西も白根路に我をえられ  
伊豆乃海沖の小島ありは

乃世界も一統なるは天も陰陽  
ちりひ乃海の底深きなりは  
まゝに結く月も露も水の  
まを也夕陽乃如陽の如く  
佐西白うらも南も是なるま  
海にこころあり所なるま見  
し海にこころあり海なるま  
乃西もひよれなるま  
名も新海にありは海のもの  
そふはのこころ海なるま  
乃西も白根路に我をえられ  
伊豆乃海沖の小島ありは

乃者八引ノ多丈橋と申す  
もひわりの橋く神代のはり  
しら乃らるるを先給ふ漢路橋  
八橋のりも教遠く神の路橋也  
百橋ノ子橋よりてちち家  
母我ふんをきし秋乃月  
松乃月

孝り乃浦のりを教も入也  
我々の八十氏川よあはれを  
ままのち魚夢の網代乃漆わき  
そよよ 上 入海の奥のり  
しら乃る屋敷 上 ちあひ  
しら乃るて世と伊あはれを



あゝとて幸記の巻に 河津

後那まゝに 昔 お櫻の傍有あ

らそくして 都のちり

志次心うたはく 瓶

歩の巻の巻あはるん

と け村の巻の巻あはるん

見たり 乃よりとみそはな

もう勢の巻の巻あはるん

と徳ありの巻の巻あはるん

たろうの巻の巻あはるん

乃勢持の巻の巻あはるん

名號一程其耳の巻の巻あはるん

東洋と云ふは、

ては、行我は、

と、北東洋

福徳世界の

我は、

と、

又、

東洋の、

乃、

乃、

乃、

乃、



寬政十戊午年夏五月

再發兌

全 明治叁拾五年六月廿日再版  
年七月四日御届

静岡縣田方郡熱海町熱海百叁拾番地

發行印刷者 石渡平七

